

第4章 観光振興ビジョンが目指す目標

1 観光振興の課題

(1) 観光振興と産業振興の連携

観光振興施策については、観光情報の提供や史跡等の施設整備といった狭義の施策として捉えるだけでなく、区内産業の活性化を誘発する施策として広義に捉えていく必要があります。

従来の施策は、観光客へのサービスとして情報提供や案内板の整備など行ってきましたが、これからの施策は、商店街との連携を意識したイベントの実施や製造業やTV局等と連携した体験プログラム、観光客への買い物等特典の付与など産業振興を踏まえた視点で施策を立案していく必要があります。

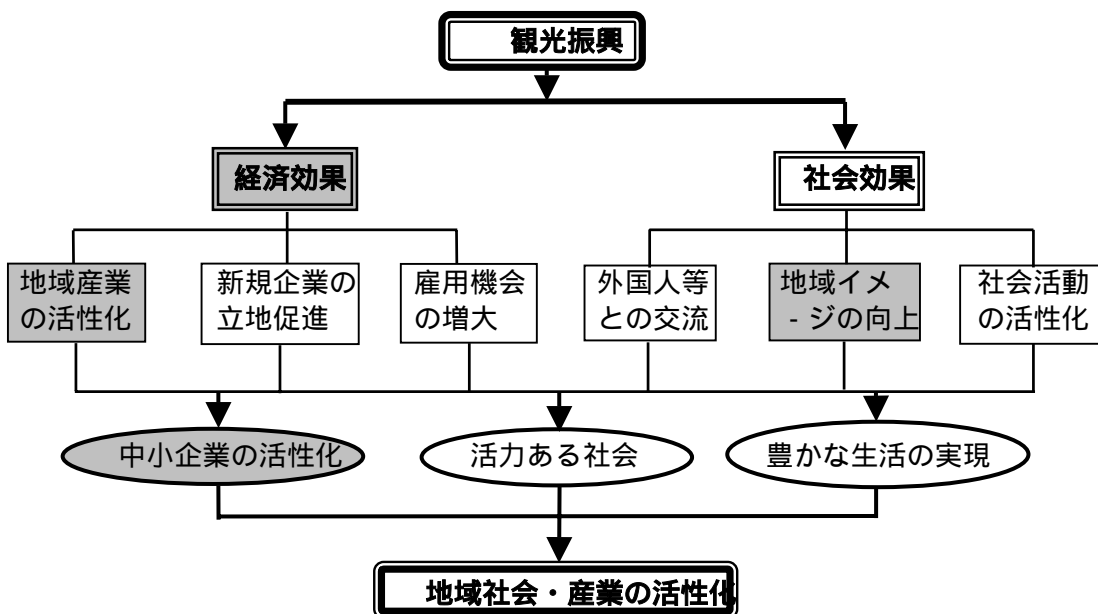
(2) 施策効果の具体化

港区を訪れる観光客は、区内での宿泊、目的地への移動、有名店や商店街等での飲食・買い物、観光施設への入場、ショッピング等によりさまざまな観光消費を行います。それらは、観光施設や小売・飲食店、交通機関等の売上増となり、所得の増加、取引や雇用の拡大等につながっていきます。

新たな観光振興事業の実施により、こうした経済波及効果を促進していくことができますが、その効果を目標数値として把握する必要があります。また、効果を高める前提として区内での企業間取引を進めていく必要があります。

このほか、観光客の増加による港区のイメージの向上、観光ボランティア活動の促進など社会的な効果も進めていく必要があります。

図表4-1 観光振興が及ぼす効果



注：網掛け部分は、特に重要な視点

(3) 観光振興体制の整備

さまざまな観光情報を収集し、観光施策を企画、実施していくには、区と港区観光協会だけでは困難です。また、施策効果を高めていくには、民間企業や観光NPO、地域の観光まちづくり協議会等との連携などが不可欠です。

個々の役割分担を明確にし、全体的な観光振興体制を整備していく必要があります。

2 観光振興ビジョンの目標

港区観光振興ビジョンは、前述の課題を踏まえながら、観光振興施策の推進、地域商店街と観光事業との連携、経済波及効果等を明確にすることで、観光振興と産業振興を連動させ、区内産業・中小企業の活性化を推進することを目的とするものです。

これらにより“港区全域に賑わいと活性化が創出される”ことを観光振興ビジョンの目標とします。

**目標：港区全域への賑わいの創出と観光消費による
商店街・中小企業等の活性化**

3 目標実現のための5つの基本方向

上記の目標を実現するため、次の5つの基本方針に基づいた取り組みを行います。

多様な媒体を活用した観光情報の発信を進めます。

国内各地から観光客を誘致し港区のリピーターとしていくため、インターネットや旅行情報誌、パブリシティーなど多様なメディアを活用して、観光情報を発信していきます。また、外国人観光客の誘致に向けて、国外メディア(特にCATV)が活用できるような港区の映像情報を提供するなど、情報発信を進めていきます。

地域の特性を踏まえた観光ゾーンを設定し、この中での観光振興を進めます。

全国的な知名度を持つ地名や主要観光施設の入場者数、観光イメージの定着性等を踏まえて、地域の魅力を“面”でとらえる観光ゾーンを設定し、イメージを伸ばす個性的な施策を工夫していきます。

観光資源の開発・活用とネットワーク化を進めます。

地域にある有形・無形のさまざまな観光資源の開発と磨き上げを行い、テーマ性のある観光ルートの開発等とおしてネットワーク化を進めていきます。また、観光に関する認定制度やファンクラブ的な施策による“人のネット”も進めていきます。

商店街の観光資源活用やイベントを支援します。

一部の観光資源に集中している観光客の興味を、他地域にも向けさせるには、商店街による観光資源の活用や“ここでしか買えない名物”の開発等が必要です。こうした集客性を高めるための商店街の観光活動やイベントを支援していきます。

区内での企業間取引を促進し、観光事業の実施による経済効果を高めます。

経済効果の総和を地域内に留める割合を高めるには、区内での企業間取引を進める必要があります。このため、区内中小企業が保有する技術や製品、企画力等を広くアピールし、受発注交流を進めていきます。